

海難救助活動レポート

平成22年の1月～6月までの海難救助出動件数は160件で、144人の人命救助と67隻の船舶救助に関わりました。

全国の統計でみると、海難救助に出動した救難所員は延べ2,154人、救助船は延べ853隻、協力船は延べ165

隻でした。これを昨年度の同じ時期と比較すると、出動件数で33件減少し、救助人命は20人の減となりました。出動した救助船は711隻の減で、出動救助員は2,967人少なくなっています。

天候が急変する中、連携プレーで人命救助

NPO秋田県水難救済会戸賀救難所

戸賀港を出漁した船外機船が、平成22年4月13日午前6時頃、湾内で強風にあおられて転覆。乗員1名は転落したが船底に這い上がり、避難した。たまたま湾付近の路上を自家用車で走行していた戸賀救難所員が海上で救助を求める遭難者を発見、ただちに他の救難所員に応援を求めるとともに、自己所有の漁船で現場に急行。天候が急変する中、連携しながら迅速に救助活動を行い、事故発生から約25分後に遭難者を救助した。



秋田県水難救済会
戸賀救難所

江畑 政紀さん
敦賀 強さん

航行中に事故を発見、救助活動を展開

新潟県水難救済会出雲崎救難所

平成22年5月5日午前6時20分頃、漁場に向かって航行中の漁船Sは浅瀬岩礁に船体が当たり、乗員が海上に投げ出された。陸上の発見者により110番通報があり、与板警察署より出雲崎漁協支所長および出雲崎救難所事務局に連絡が入った。一方、救難所員2名はそれぞれの船で漁場に向かって航行中、旋回している漁船Sに遭遇、さらに遭難者を発見し、救助。遭難者の搬送と、漁船Sの曳航を行った。



新潟県水難救済会
出雲崎救難所

佐藤 幸一郎さん
近藤 光雄さん

荒天の中、遭難したシーカヤックの乗組員を救出

千葉県水難救済会金田救難所



救助に向かう金協丸

平成22年5月24日午後7時25分頃、3艇のシーカヤックが遭難しているとの連絡が木更津海上保安署より金田救難所に入った。所長は至急所員に招集をかけ、午後7時40分、集まった所員に救助出動を指示して救助船の第18金協丸に乗船、遭難現場に向かった。午後8時3分に現場に到着したものの、荒天の中での船体救出が困難だったため、乗組員3名を救出し、中島漁港に午後8時30分に帰港した。翌日、天候が回復したことにより午前6時30分に船艇の救出作業を開始、午前8時45分に3艇の救出を終了した。

千葉県水難救済会金田救難所

所長 金網 一衛さん
大村 竹男さん 篠田 和明さん
本多 安雄さん 勝畑 忠一さん
江尻 曠之さん 浅野 政男さん
石渡 房雄さん 緑川 太平さん
錦織 正行さん

強風の中、座礁した船から乗員を救助

和歌山県水難救済会紀南西部救難所

平成22年4月3日午前9時30分頃、釣りのため島島付近の海域にいたプレジャーボートが、風に圧流され暗礁に乗り上げた。自力離礁ができず乗員2名が救助を求めているところ、付近を航行していた紀南西部救難所員が気づき、現場に赴いた。現場は多数の暗礁が存在し、さらに強風のため自船も座礁する可能性がある中、乗員を救助。また、プレジャーボートが流されないよう、岩場に固定した。プレジャーボートは乗員搬送後に引き下ろされ、漁港まで曳航された。



和歌山県水難救済会
紀南西部救難所

岩本 剛さん



(社)北海道漁船海難防止・水難救済センター虻田救難所

平成22年3月15日午前5時頃、ホタテの荷上げ作業中の漁船H丸はユニック荷重でバランスを崩し、転覆。乗員は自力で船底に這い上がり、救助を求めた。付近で操業中であった虻田救難所員が転覆に気づいて駆け付け、乗員を救助し帰港。その後転覆船の救助を行うため虻田救難所員が出動し、ホタ

テ養殖施設から転覆船を引き出し起こし作業を行おうとした。しかし船体の大部分が浸水したため、いったん大磯漁港付近に曳航し、漁港工事に携わっていた企業に協力を求めた。潜水夫によりベルト掛けした後、企業の基軸船クレーンにて吊り上げ、ポンプで排水し、虻田漁港へ曳航、転覆船を救助した。

岡山県水難救済会スズキマリーナ神島救難所

平成22年5月31日午前9時20分頃、水島海上保安部から、笠岡市神島西側海域でプレジャーボートNが機関故障のため救助を求めているとの通報を受けた。救助艇により救難所員2名が現場に向かい、故障船の調査を行った結果、クラッチを止める消耗品のキャップが破損して外れ、クラッチの切換

え不良により前後進不能となって航行できなくなったことが判明。応急処置を施し、救難所員が上乗しし救助艇の伴走警戒により故障船の自力航行でスズキマリーナへ回航させて救助を完了した。

岩手県水難救済会宮古救難所

平成22年5月10日午前0時30分頃、昆布の養殖施設で、Aは刈り取り作業中、桁送り機に左腕をはさまれ、ロープを切り離したものの反動で海中に転落。ケガのため船に這い上がる事ができず、船外機につかまり約1時間漂流。その後、同業者が遭難者を発見し、近くで操業していた宮古救難所員

に呼びかけ、救助を行った。しかし遭難者が意識を失っていたため、漁協に通報し救急車を手配。遭難者を乗せて音部港に向かい、岸壁付近にいた救難所員等の協力を得て岸に上げ、病院に搬送した。遭難者は病院で意識を取り戻し、左腕の骨折等も免れた。

山口県水難救済会久原救難所

遭難者Cは、平成22年6月12日に遊走目的で仲間4名とともにシーカヤックで出艇、手長島を航過した付近から南よりの風が強くなって航行が困難となり、午後5時頃風浪の影響により転覆。船体を復旧させることができず、漂流することとなった。行方不明になっていることに気づいた仲間が海上

保安庁に救助を求め、仙崎海上保安部の要請により久原救難所から救難所員が出動。午後18時35分頃遭難者を救助し、シーカヤックを曳船のうえ久原港に搬送した。

宮城県水難救済会雄勝救難所

平成22年2月1日午前11時35分頃、船越湾において漁船が炎上しているとの情報を雄勝救難所が入手。救難所員を発動させるとともに、石巻海上保安署に通報した。炎上した漁船D丸は、乗員1名により漁のため操業中だった。現場に到着した救難所員は乗員を救助するとともに、曳航索を取って

炎上船を広い海域に移動し化学消火弾を投てき、炎の勢いが弱まると、救助船に搭載していたポンプにより消火を実施した。その後、鎮火した事故船を船越漁港に曳航した。

大分県水難救済会佐伯救難所

平成22年3月21日午前6時40分頃、海上保安署より佐伯湾大入島トウドウ鼻沖でN丸が転覆しているとの連絡が、佐伯救難所に入った。所長はただちに救難体制を整え、午前6時55分、救助船の仁盛丸と豊栄丸、救難所員4名を現場に出動させた。

午前7時34分に転覆したN丸を発見し、乗員1名を救助。海上保安署と協力して転覆船をいったん鶴谷岸壁に曳航し、船体を復元。その後豊栄丸で曳航し、寿マリーナへ上架した。

伊豆地区水難救済会伊東救難所

平成22年4月17日午後1時50分頃、八幡野港で磯釣りをしていたBは高波にさらわれ、海中に転落した。付近にいた釣り人がBを発見、119番通報するとともに、ともに近くにいたいとう漁協の組合員に救助を依頼した。一方、八幡野港にいた伊東救難所員は「釣り人が海中に落ちた」との知らせを

受けたただちに現場海域に到着、近くにいた釣具屋経営者と連携して遭難者をカギ竿を使って揚収、八幡野港に搬送した。

鹿児島県水難救済会南大隅町佐多救難所

平成22年2月28日午前9時40分頃、田尻港より瀬渡し船で渡った釣り客が行方不明との連絡があり、9時50分、瀬渡し船「T丸」の船長より、捜索の要請を南大隅町佐多救難所が受けた。

11時25分に佐多岬灯台約1km付近で救助船いづみ丸が遭難者を発見し、収容。病院へ搬送した。遭難者は救命胴衣を着けていたため、命に別条はなかった。

救助船9隻が出動し灯台下からピロウ島周辺を捜索、午前